



学長プロフィール ちば・こうじ ● 1964年生まれ。駒澤大学仏教学部卒業。同大学院人文科学研究科仏教学専攻博士後期課程満期退学(文学修士)。1995～2013年まで関東管区矯正施設市原刑務所少年院 教諭師。2000年駒沢女子大学人文学部専任講師。助教授・准教授を経て2011年教授。2019年より現職。学校法人梅檀学園常務理事、東北福祉看護学校校長、芹沢銈介美術工芸館館長、曹洞宗大本山永平寺僧堂教育評議員など。

大学プロフィール 学園1875年創立。1962年東北福祉大学開学。総合福祉学部(社会福祉学科、福祉心理学科、福祉行政学科)、共生まちづくり学部(共生まちづくり学科)※、教育学部(教育学科)、健康科学部(保健看護学科、リハビリテーション学科、医療経営管理学科)の4学部8学科を擁する。※共生まちづくり学部開設にともない総合マネジメント学部は2025年度入試より募集停止。宮城県仙台市。

ウェルフェアから ウェルビーイングへ。 自己の存在を見つめ直す これからの時代の福祉を

東北福祉大学
学長

千葉公慈

曹

洞宗宗立の本学は、福祉、教育、医療など、「生きる」という、人間の営みの根幹となる分野を中心に、

東北各地さらには東日本全域の社会に不可欠となる人材を輩出してきました。2025年に創立150周年を迎えるに当たっては、「ウェルフェアからウェルビーイングへ」という掛け声の下、これからの時代の福祉を見据えたカリキュラムの見直しを進めています。ウェルビーイング (Well-Being) とは、一人ひとりの幸せとともに社会全体の幸福実現を理念とする言葉ですが、直

訳すると「よき存在」となります。福祉を社会的な補助として捉えるだけではなく、個々人が主体性をもち、ありのままに生きることの価値を認め、存在の尊さを追求していく。これこそ、これからの福祉のあり方ではないでしょうか。その点、ウェルビーイングは仏教における福祉・幸福の考え方に近いと感じています。道元禅師は「仏道をならふといふは自己をならふなり」と記しています。修行の道はほかでもない、己を学ぶといふこと。「コロナ禍を経験し、生成AIが急激に発達している今だからこそ、これまで以上に自己に向き合う必要があると思うのです。」

2025年4月に開設する「共生まちづくり学部」も、こうした思いが背景にあります。存在といったとき、己の存在と同時に、他者のそれも大切です。さらに、仏教的にいえば、動植物はもちろん石ころや水に至るまで深い関係性をもつて世の中は構築されています。「共生」には、人間同士はもちろん、この世の存在すべてが支え合うという意味も込められています。本学の教育理念である「自利・利他円満」(支え合い、ともに幸せ)を体現するものと言えましょう。「まち」を広く社会と捉え、福祉的側面はもちろん、テクノロジーや歴史文化、自然資源も

取り込みながら、従来の経営学や都市行政学では取まりきれない、生きることの満足感につなげていく。そうした新しい社会の仕組みを学生と教職員が一緒に構築していきたいのです。こうした考え方は、課題先進地域である東北のみならず、世界中の地域で求められていくはず。「行学一如」の建学の精神の下、社会が必要とされる実践的な学びをいち早く展開していくつもりです。

道元禅師は「発心百万発するなり」とも記しています。発心とは悟りを得ようと決心すること。転じて、思い立つことです。極意を身につけた人でも、最初の一步がなければ道は達成できません。若い人には「将来、こうありたい」「こういう学びをしたい」という目覚めの瞬間があるでしょう。その最初のときめきを忘れない限り、ぶれることはありません。そうした人の一生に関わる場面に出会えるのが高校の先生方だと思います。高校では今、環境問題など現代的なテーマを扱う探究学習が進んでいます。学習者本位の学びがさらに高度かつ専門的にできるのが大学です。高校生の純粋な気持ちを境目なく受け継ぎ、高めていく。そのために高校の先生方と連携を深めたいと思っています。